

特定分野に特異な才能のある児童への支援 ～非認知的スキル育成に焦点化した取り組み と他者を認め合える場の形成～

三重大学附属小学校の研究と実践

三重大学教育学部 特別支援教育講座（医学）分野
三重大学教育学部附属学校企画経営室 室長
三重大学・津市子ども教育センター センター長
松浦直己

特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する指導 (文科省, 2021 審議のまとめ)

例えば、単純な課題は苦手だが複雑で高度な活動が得意な児童生徒や、対人関係は上手ではないが想像力が豊かな児童生徒、読み書きに困難を抱えているが芸術的な表現が得意な児童生徒など、多様な特徴のある児童生徒が一定割合存在します。学校内外において、このような児童生徒を含め、あらゆる他者を価値のある存在として尊重する環境を築くことが重要です。

背景

- 文部科学省「特異な才能のある児童生徒に対する指導・支援に関する実証研究」団体として、採択された。
- 特異な才能を持つ子どもは、特定の分野で突出する才能をもつ。
- 一方で、授業が簡単すぎて苦痛、周りと話が合わないなどの理由から、不登校になるケースもある。

様々な才能を持つ子どもに合わせた授業や学校づくりへ

附属学校の使命に基づいた取組

教育の理論・
実際に関する
研究及び
その実証

学生の
教育実習

地域教育の
改善・進歩
への寄与

特定分野で特異な才能をもつとは

- 「1つまたは複数の領域において、同じ年齢、経験、環境の人と比べて、より高い水準の能力を発揮している、または発揮する能力(を持つ人)」
- 知性、創造性、芸術、リーダーシップ、あるいは特定の学術分野において高い潜在能力

欧米でのいわゆる“ギフテッド”とは

- 通常の学校教育にはない支援や活動を要することもある

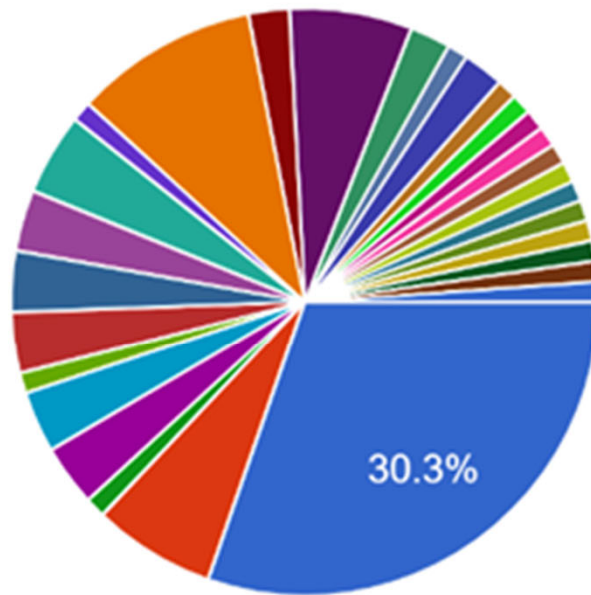
【欧米諸国】

- ギフテッド教育:国家レベルでの責務
- ギフテッド教育を実践する団体・学校が多数
 - 個々の特性・強み・興味や関心のある領域などにあわせて、個別の教育プログラムを提供

医・歯・薬・看護系志望が3割(昨年度調査)

将来の夢（職業）は何ですか。

89 件の回答



- 医・歯・薬・看護系
- 保育・教育系
- 福祉系
- 栄養・調理・製菓系
- 美容・ヘアメイク・ネイル系
- 旅行・航空・ホテル・ブライダル系
- 服飾系
- マスコミ系

▲ 1/4 ▼

本実証事業で期待されること

- 特定分野の特異な才能に対する大学と連携した取り組み
- “早修”ではなく“拡充”
- 知識の提供ではなく、自ら深く学ぶ機会の提供
- 認知や発達の特性に起因する学習上の困難への支援
- 学校内の環境整備
- 学びに対する内発的動機付けを高める関わり

評価について

- 児童へのアンケート調査
(iPadを活用したWeb調査)
- 津市e-Learningポータルを活用した学習ログ
- 児童が記述したレポートの分析

調査データは研究スタッフのもとに厳重に保管され、統計的に処理されます。
個人のプライバシーの保護については十分配慮いたします。
研究目的以外には使用いたしません。

6年生児童が受ける専門家の講義(全6回)

- 6月22日(木)5・6限

「遺伝子が環境によって変わる 一人はいつでも立ち直れる」

講師:医師 梅本 正和 氏(うめもとこどもクリニック)

- 7月14日(金)2・3限

「法と医療の接点」

講師:弁護士 増田 聖子 氏(増田・横山法律事務所)

6年生児童が受ける専門家の講義(全6回)

- 9月

「重症心身障害児の治療」

講師:岩本 彰太郎 氏

(三重大大学小児科/小児・AYAがんトータルケアセンターセンター長)

- 10月

「救急医療の最前線」

講師:今井 寛 氏(桑名東病院 理事/

元・三重大大学医学部付属病院救命救急・集中治療センター長)

6年生児童が受ける専門家の講義(全6回)

- 11月

「小児の神経性疾患治療の最前線」

講師:米川 貴博 氏(三重大大学小児科)

- 12月

「食物アレルギー疾患の最前線治療」

講師:長尾 みづほ 氏(三重病院 臨床研究部長)

外部の有識者によるサポート体制

1	◎池澤聰	国際医療福祉大学 精神神経科
2	熊崎博一	長崎大学医学部精神神経科学講座「未来メンタルヘルス学分野」教授
3	吉川雄一郎	大阪大学大学院基礎工学研究科 准教授
4	寺田和憲	岐阜大学 工学部 教授
5	梅本正和	うめもとこどもクリニック 院長

非認知能力とは？

学術的な呼称	一般的な呼称
自己認識 (Self-perception)	自分に対する自信、やり抜く力
意欲 (Motivation)	やる気がある、意欲的である
忍耐力 (Perseverance)	忍耐強い、粘り強い、根気がある、気概がある
自制心 (Self-control)	意思力が強い、精神力が強い、自制心がある
メタ認知ストラテジー (Metacognitive Strategy)	理解度を把握する、自分の状況を把握する
社会的適正 (Social competencies)	リーダーシップがある、社会性がある
回復力と対処能力 (Resilience and coping)	すぐに立ち直る、うまく対処する
創造力 (Creativity)	創造力に富む、工夫する
性格的な特性 (Big 5)	神経質・外交的・好奇心が強い・協調性がある・誠実*

セルフコントロールの重要性

- 非認知スキル（非認知能力）で最も重要なのは衝動性制御のスキル（セルフコントロール）
- IQがとても重要なのは言うまでもない
- それを生かすのが衝動性制御のスキル

なぜ学校は大切か？

- 非認知能力は、スキルであり、トレーニング可能なもの！
- 非認知能力は「人から学び、獲得するもの」
- 子どもたちは、学校でこのようなスキルを先生や友達、上級生から学んでいく
- 学校は単に勉強をする機能的場所ではない
- 非認知能力を磨く場所がすなわち学校である
- 「あいさつ」や「そうじ」、「人の話を聴く」ことが重要なのはわかっている、それらのスキルを演習的に獲得できるのが学校である
- 先生方が行事を大切に考えているのも、おそらくこれが理由。
- よってモデルが多い学校はいい学校である

非認知能力の研究で明らかになっていること

- 一歩学校の外に出ると、学力以外の能力が圧倒的に重要である（これは認知能力が重要でない、といっているのではない。両方あれば鬼に金棒！）

ー特に重要な非認知能力ー

- 学歴・年収・雇用などの面で、子どもの人生の成功に長期にわたる因果関係をもっている
- 教育やトレーニングで鍛えて伸ばせる

非認知能力の重要性を再認識せよ

- テストの点をできるだけ高くとることの方に価値をおく風潮は強い
- **非認知能力への投資は、子どもの成功にとって非常に重要である**
- 学級経営とは、学級全体の子どもたちに「非認知能力」を高める投資のことを言うのではないか
- 部活動とは、思春期・青年期の子どもたちに必要な「非認知スキル」を高める全体的活動といえるのではないだろうか
- **特別支援教育とは、子どもたちの認知能力を高めるだけでなく、非認知能力のスキル獲得に目的的に焦点化するべきでないか**
- 特別支援教育における個別指導も、この視点が欠けているようならやっても効果は限定的だろう







DNAを解析すると 何ができるのか？



西井 煌紘 佐々木 郁乃 刘 凱宇

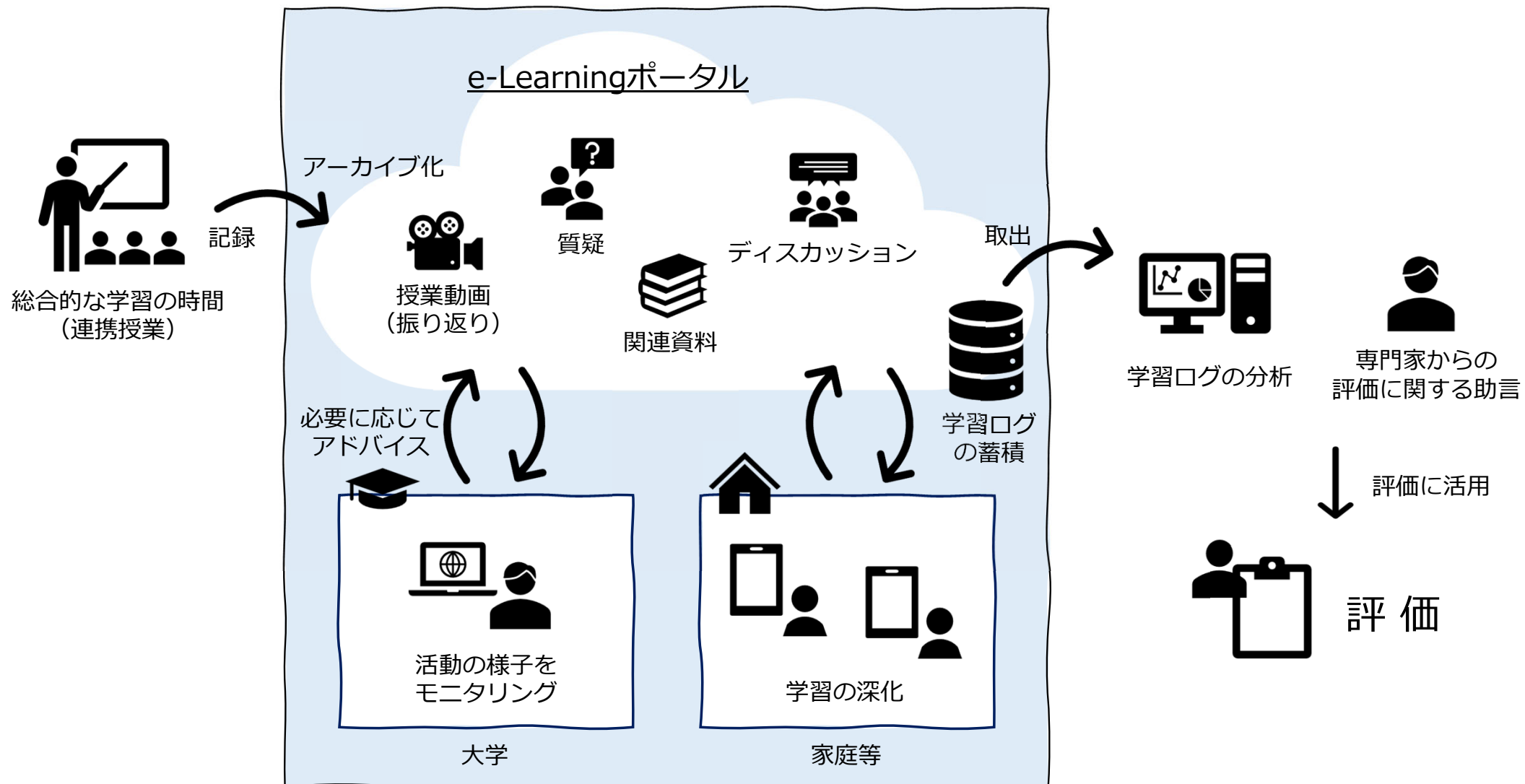
Stage area with students and equipment:

- A student in a school uniform stands at a wooden podium on the right side of the stage.
- Two other students in school uniforms stand nearby.
- A table on the far right has several people seated behind it, possibly acting as judges or hosts.
- Technical equipment, including tripods and speakers, is visible on the stage floor.



3つのポイント

- 学びの上限を設けない
- 学びの下限も設けない
- 学習の深化や発表において、相互にリスペクトする





特異な才能をもつ児童生徒の学習困難に対する支援の取り組み

学習上の困難への支援、学校内の環境整備、学校外の学びの場の提供などといった支援によって、特異な才能のある児童生徒が困難を克服でき、多様性を包摂するような学校環境づくりをめざす。



特定分野の特異な才能に対する

大学と連携した学習の取り組み

特定分野の特異な才能に対し、特異な才能に対し通常カリキュラムよりも体系的で深化した幅広い内容の学習を行う「拡充」を、総合的な学習の時間において展開する。

研究成果報告の構想

- 認知スキルの根幹に存在する非認知スキルを磨いていく
- お互いが認め合い、リスペクトする学校風土
- 多様な個性を共に認め合い、伸張し合う仲間作りの徹底
- 21世紀型学習スキルとは何かを追究する

個性を認め合う
学校

興味関心に応じ
て、発展的な内
容を深める学習

- 医学、生理学、生命科学に特化した発展的内容の学習成果
- 自ら問題意識を持ち、質問したり、調べたりすることができる
- 研究者と直接対話し、自らの学習意欲を高める

三重大学医学部や運営指
導委員会との連携

- 専門家である運営指導委員会の先生らとの密接なコミュニケーション
- 医学部研究者らとの講義内容の精選
- 三重大学附属小学校と医学部とでしかできない取り組みを深化させる

まとめ

- 文部科学省「特異な才能のある児童生徒に対する指導・支援に関する実証研究」団体として、採択された。
- 三重大大学と連携し、実践事例の蓄積を図った。
- 2年間、6年生の「総合的な学習の時間」で展開した。
- 評価は児童を対象にアンケート調査等で行う。
- 専門家を招聘し、医学・生理学の分野の講演を行った。
- 最後に専門家を招聘し、学習発表会を開催した。
- 特異な才能を有するであろう児童が活躍する姿が確認された。